

# 児童書を活用した蜃気楼の普及について ～蜃気楼の絵本「いかせのうろきんし」の出版～

日本蜃気楼協議会 木下 正博  
(富山県総合教育センター)



## 1. はじめに

蜃気楼に関する書籍は、「蜃気楼のすべて！」(日本蜃気楼協議会著、草思社、2016)をはじめとして、幾つかの本が存在する。しかし、それらのほとんどは大人向けの書籍であり、写真や歴史、科学等に着眼した内容が主である。

一方、蜃気楼に関する幼児や児童向けの書籍は、これまでほとんど出版されたことはない。そこで令和3年2月に、小学校低・中学年向けに蜃気楼をテーマにした絵本「いかせのうろきんし」(木下(文)・黒瀬(絵)、インプレスR&D、2021)を出版したので、その経緯や活用等について報告する。

## 2. 制作のきっかけ

絵本を作るきっかけは、令和2・3年当時勤務していた富山県立新川みどり野高等学校の教員からの依頼であった。この教員は、県内で活動している団体「富山アートプロジェクト」の代表である。「富山アートプロジェクト」は、富山のアートを感じる・楽しむをコンセプトに他団体と連携しながらイベントを開催している団体である。

依頼の内容は、「光をテーマにした朗読会を考えている。そこで蜃気楼を取り上げたい。地元(富山)の民話や絵本などで蜃気楼を扱ったものがあれば教えて欲しい。」であった。しかし、民話や絵本についてはこれまで自身、調査したことがなく、これをきっかけに富山県内における蜃気楼の民話や絵本について調べてみることにした。その結果、物語の一部に蜃気楼が登場するものはあるが、蜃気楼をメインにしたものはほぼ無いことが分かった。児童向けとして唯一、「しんきろうのみえる町(伊藤真智子(文)・中村まさあき(絵)、岩崎書店、1986)」があるが、内容は、蜃気楼の発生理由や歴史を小学生にも分かりやすく説明した子ども向けの科学書籍であった。

そこで、朗読会に向けて自ら童話を創作することにした。ストーリーは自ら考え、絵は当時、同僚であった美術教員、96megu(黒瀬愛実)氏に依頼することにした。

## 3. コンセプト

- ・体裁 絵本
- ・文章量 朗読会に活用できるよう15分程度で読み終える程度
- ・対象 小学校の児童(語句や用語は小学校二年生が理解できる程度)
- ・内容 創作童話
- ・ページ数 30ページ程度
- ・その他 本物の蜃気楼の写真を1枚、途中に見開きで掲載

## 4. あらすじ

物語は、マーくん和ミーちゃんが、おじいさんからもらった古い双眼鏡を持って、蜃気楼を見に行くところから始まる。二人で一緒に蜃気楼を見ようと、双眼鏡を逆さまにのぞくと、アッと間に蜃気楼の世界へと吸い込まれていく。なんと、そこで出会ったのは大ハマグリであった。二人は、大ハマグリといろいろ会話しながら蜃気楼の不思議さや面白さについて学んでいく。

物語は、空想上の話(創作童話)であるが、楽しみながら蜃気楼の見え方や語源、発生に関する光学的な仕組みなどが小学校の低学年にも理解できるようになっている。

## 5. 出版

本を出版するにあたって出版関係者からは、「絵本を買い求める人々に、蜃気楼に興味ある人の割合は少ないと思われる。そのため、商業出版(費用を出版社が負担)するのは難しい。」と助言を頂いた。そこで、費用を抑えた自費出版を模索することにした。なお、出版社を通しての自費出版は、最低でも100万円程度の初期費用が必要なため断念した。

## (1) ネット印刷の利用

ネット印刷を利用すると、比較的低予算で本を作ることができる。参考までに、今回利用した(株)プリントパックでの費用を紹介する。入稿は、PDF形式でweb上から行う。様式等の間違いは担当者からメールで指示があるので、印刷までの手続きは比較的簡単に行える。

(参考) プリントパックへの発注書より抜粋 (2021年2月)

- ・印刷方法：オフセット(100部から発注可能) ・サイズ：B5 ・ページ数：36
- ・綴り方向：右綴じ【縦型】 ・表紙色数：片面4色 ・本文色数：両面4色
- ・表紙用紙：ホワイトアートポスト180 ・本文用紙：マットコート110
- ・加工：無線綴じ製本 ・オプション加工：表紙ツヤPP加工片面

以上の内容で、6営業日の入稿、300部程度の発注とすれば230円/冊程度となる。なお、表紙ツヤPP加工の指定ができない1~300部程度の小ロットでの発注であれば、50部で300円/冊程度から作ることができる。

ネット印刷の利点は、なんとと言っても安価なことである。ただし、欠点は校正を全て自己責任で行わなければならないこと、また、図書番号(ISBNコード)が付与できないため、書店等での流通ができないこと等がある。本書籍の場合は、魚津埋没林博物館で販売してもらうことにし、書店での販売はあきらめることにした。

しかし、全国各地から手軽に購入してもらうことや、図書番号(ISBNコード)付与のことを考え、併用策としてPOD(プリント・オンデマンド)による出版を考えた。

## (2) PODによる出版

POD(プリント・オンデマンド)とは、web (amazon等) で販売されていて、注文ごとに1冊ずつ印刷し製本する形態の出版物である。購入者側から見ると、購入から届くまで2日程度なので、web書店で一般書籍を買うのと同様感覚である。また、著者側から見ると、初期費用としての印刷費がかからず、在庫を抱えるリスクがない利点がある。ただし、本の体裁においてカバーや帯がつかない、表紙の紙質指定ができない等の制約がある。また、1冊毎に印刷費をweb書店に支払う必要があるため、販売価格は若干、高くなる傾向がある。

参考までに、今回利用したNextPublishing出版サービスを紹介する。NextPublishingは、株式会社インプレスR&Dが提供している出版プラットフォームである。その特徴は、出版できる状態のPDFファイルがあれば、登録と使用料は無料である(図書番号-ISBNコードの登録代行には¥5500が必要)。販売価格は自分で決定し、完成した本はネット書店の最大手Amazonで販売される。紙の在庫を持たないため品切れの心配がなく、電子書籍【Kindle】の出版にも対応している等があげられる。

実際に、前述のプリントパック書籍とPOD書籍を見比べてみたが、多少の色味の違い以外は、質感はほぼ同一のものとなった。

amazon.co.jp 商品の検索 商品が売れ行き 本

本：絵本・児童書・絵本

いかせのうろきんし〜しんきろうのせかい〜  
オンデマンド(ペーパーバック) - 2021/2/19  
木下 正博 (著), 96megu. (イラスト)  
★★★★★ 4個の評価

すべての形式と価格を表示

Kindle版(電子書籍)	オンデマンド(ペーパーバック)
¥250	¥990
縦横ポイント: 3pt	縦横ポイント: 10pt

今すぐお読みいただけます: 無料アプリ ¥990より1冊読

「いかせのうろきんし〜しんきろうのせかい〜」は、子どもたちに鑑賞力の向上や不思議を知ってもらおうと制作しました。内容は、小学校の低学年が楽しめるよう絵本仕立てにしています。また、中・高学年の児童にも興味を持ってもらえるよう、理科の要素を含んだ読み物としても充実させました。読者は小学校2年生程度が読めるようになっています。物語は、マークとミーちゃんが、おにいさんからもらった古い双眼鏡をもって、無邪気な旅を続ける

## 6. まとめ

富山アートプロジェクトによる朗読会は、令和3年11月6日(土)14:00~14:30に魚津埋没林博物館の「木っずルーム」にて開催された(写真)。当初は、5月に予定していたが、新型コロナの影響により、8月へ延期、そして11月へと再延期され、ようやく開催にこぎつけた。20名程度の参加を予定していたところほぼ満席で行うことができた。ほとんど大人の参加であったが、皆、物語や絵に引き込まれていた様子である。朗読の会では、今後もこの絵本の朗読会を図書館や絵本館などで継続していく予定である。また、登場人物に演劇部の高校生を起用する案などがあり、更なる発展が期待されている。

さて、令和3年3月の発売から約半年が経過し、現在、絵本はたまに売れる程度となった。この半年間で魚津埋没林博物館では約100冊、web上では約30冊を販売することができた。なかなか商業ベースには乗らないようであるが、予想以上に販売できたと感じている。

今後は、さらに児童に向けての普及活動を行い、次世代の蜃気楼ボーイ・ガールを育てていきたいと考えている。

